まこと君と舎営に行こう

～ビーバー隊が妙見山自然守護大明神を助ける～

浜嶋鉱一郎

豊中第２団の HP（７月３１日）から引用　閉村式後の記念撮影

舎営までのできごとをリアルタイムにＨＰで公開する。

・7 月 2 日：隊長が妙見山自然守護大明神からの手紙を紹介
・7 月 3 日：隊長から舎営への参加確認のメール
・7 月 5 日：大明神が２団のＨＰにスカウトに宛てた手紙を掲載
・7 月 12 日：大明神からまことに郵便が届く
・7 月 13 日：まことが大明神への手紙を隊長に託す
　　隊長はまことの手紙をＨＰに掲載する
・7 月 15 日：隊長が妙見山の頂上の写真をＨＰに掲載する
・7 月 17 日：大明神が秘宝の写真をＨＰに掲載する
・7 月 20 日：大明神が「ＷＡＮＴＥＤ」のちらしをＨＰに掲載する
・7 月 23 日：スカウトたちは、隊集会で舎営のしおりをもらう
・7 月 26 日：大明神からまことに返信
・7 月 28 日：大明神が川の神と出会う地図をＨＰに掲載する
・7 月 29 日：舎営が始まる
・7 月 30 日：舎営が終わる
・8 月 1 日：大明神からのお礼がＨＰに掲載される

まえがき

豊中第２団のＢＶＳ隊は、今年は舎営を行うことにした。２年ぶりだ。今年は、わっぱるの予約はできたものの入所時間が１５時と指定された。これでは、活動時間が半日しか確保できない。そこで、リーダーたちは頭を絞って、妙見山のエリアも含めて、壮大なシナリオを考えた。

それが、妙見山自然守護大明神を助けるプログラムなのだ。１ヶ月前から、大明神とのやり取りが始まった。活動の流れをＨＰで公開することも今回の特徴である。ＨＰに掲載するとどんなことが起きるのか。豊中第２団のＢＶＳ隊の活動を世界に発信することができる。身近なこととして、家族で楽しむ、祖父母も巻き込んで楽しむ、団で楽しむなど、いろいろな可能性が出てくる。

なによりも、スカウトたちが楽しい。ＨＰの情報発信はどんなことなのかを体験してもらえる。自分の情報発信をどのように感じるのか、実験的な試みであるが、精一杯楽しんでみようと考えた。

この手法は、「シナリオスクリプト」という建築物のプレゼンテーションに使用された手法を元にしている。建物の機能を説明するのではなく、建物の使い方を体験的に説明する手法である。ＢＶＳ隊の活動をＨＰに掲載することは、物語風に活動を伝えることになる。活動が終了してから報告するのではなく、準備期間を通じて体験してもらうことが大きな狙いだ。見てくれる人が少なくても実施した事実は永久に残る。当事者がリアルタイムに行っていることを客観的に発信し、世界の人々に伝えることも可能となる。

果たして、どのような成果が得られるのだろうか。本文も時系列で物語を進めていく。これで、仮想的に体感していただければと思う。

舎営までの物語
妙見山自然守護大明神が現れる

【2017 年 7 月 2 日　11:45】
　７月２日の隊集会は、これで終わりかと思われた。しかし、下村隊長が興味深い話を始めた。
「ちょっと待ってね。忘れるところだったよ」
　そう言って、ポケットから手紙を取り出した。
「実は、私の友人からこんな手紙が来たんだ。みんなに頼みたいことがあると書いてある。ちょっと読み上げるね」
　閉会儀礼がもう終わりかけていた。ざわざわしていたスカウトや保護者たちが、「何を頼まれたんだろう」と思って、下村隊長の方を見つめた。
　まことは、「おもしろい話かな」と思って、注意深く聞くことにした。
　下村隊長は、手紙を広げて、みんなの顔を確認してから、以下の内容を読み始めた。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
親愛なる下村隊長へ

　私は、今年から５年の間、妙見山の自然を守る大明神「妙見山自然守護大明神」に推薦されました。
　この大明神になるためには、３つの試練を受けないといけないです。
　試練とは、自然を守るために必要な秘宝を探し出すことです。
　自分の力では、これを達成することが難しいと考えています。
　下村隊長は、ビーバー隊の隊長になったと聞いたので、自然についてはなんでも知っているだろうと考えました。
　そこで、私に協力して、必ず秘宝を探し出してくれるに違いないと気がついたのです。

　時間がありません。８月１日に大明神になることになっています。どうか、助けてください。
　それで、７月２９日に妙見山に必ず来てほしいのです。

私は、それまでに秘宝のある場所をなんとか調べておきます。
それから秘宝を探し出すことは、下村隊長とたくさんのスカウトの力でやってほしいのです。
自然に関する秘宝らしいので、これは、きっとビーバースカウトにとっても役に立つものですよ。

ビーバースカウトに頼んでほしい。
私を助けてほしい。

よろしくお願いします。

追伸：もし、来てくれるスカウトの住所を教えてくれたら、私からの手紙（依頼状）を出させてもらいます。
妙見山に来てくれるスカウトが決まったら、私に教えてくれないでしょうか。すぐにそのスカウトたちに手紙を出します。
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

下村隊長は、みんなの反応を確かめた。
「みんな、行ってくれるかな。２９日は、ビーバー隊の舎営の日だよ。みんなが友だちを助けてくれるなら、プログラムを変更して、妙見山に行けるようにします」
黙っているスカウトを見て、藤橋副長が、声を掛けた。
「みんな、舎営に参加することにしているよね。隊長の友だちが困っています。みんなで助けてあげましょうよ。自然守護大明神ってなんだろうね。私は、すごく興味が湧いてきました。ぜひ会ってみたいなぁ。みんなはどう思いましたか？」
まことは、大きな声で賛成した。まことは２年生だ。
「隊長、僕は隊長を助けてあげるよ。妙見山に行くぞ」
「私も助けてあげるわ」
と１年生の稀が言った。同じ１年生の美波と友紀と幹が一緒に声を出した。
「助けよう。イエーイ！」
下村隊長は、うれしそうにお礼を言った。
「ありがとう。よかったわ。きっと友だちも喜ぶと思うよ」
藤橋副長は、
「さすがはスカウトだね。『ビーバースカウトはよいことをします』だよね」
とビーバー隊のきまりの１つをみんなに気付かせるように付け加えた。

スカウトは、これに気付いたかのようにほほ笑んだ。
ここで、浜嶋団委員長が、ムードを高めた。
「みんなの気持ちが一緒になったね。じゃあ、友だちに声が届くように激励の言葉を大きな声で言いましょう。全員で、『妙見山に行こう、ビーバー』と言います。保護者もお願いします。せーの」
「妙見山に行こう、ビーバー！！」
すぐに保護者から拍手が上がり、全員がそれに合わせて拍手をした。にわかに舎営への期待が大きくなった。

今年の舎営のテーマは、「しぜんがいっぱい」、生活目標は、「自然に親しませる」ということをリーダー会議で決めていた。それを具体的な形で実践するために「新しい妙見山自然守護大明神を助けよう」というシナリオが考えられた。
舎営のプログラムは、今日から始まったのである。

【2017年7月3日　15:35】
次の日に、まことは、お母さんからこんなことを聞いた。
「まこと、隊長からメールが来たわ。舎営に参加しますかって書いてあるわ。事前確認だから後でも変更できるらしい。どうする？」
「ぜったい行くよ。だって、僕、昨日も妙見山に行くって言ったのに。ああ、楽しみだなぁ」
「じゃあ、隊長にきちんと連絡しておくね」
「すぐにやっといて。でもね、お母さん。妙見山ってどんなところなの？　高い山？　歩いて登るのかな。どこにいけばいいの？　妙見山の頂上？　だって何も書いてなかったじゃない」
「ほんとだね。きっと隊長は聞いているのよ。まずは、みんなで助けに行くことが大事なのよ」
「ねえ、お母さん。妙見山の高さは？」
「ちょっと待って、調べてみるわ。ええーっと、６６０mだって」
「高いのかな、低いのかな。六甲山は９００mだよ」
「じゃあ、登れる高さだね」
「でも、舎営の前に登ったら疲れてしまうよ」
「そうね。きっと車で上るのよ」
「じゃあ、安心だ」
まことは、「よし、頑張るぞ」と言って、得意のポーズをとった。両手を前に

出して握りしめ、腰を「きゅっ、きゅっ」と２回左右に動かした。

【2017 年 7 月 5 日　19:30】
　７月５日に、また隊長から連絡があった。
「ＨＰのＢＶＳ隊ページに、妙見山自然守護大明神からの手紙が掲載されました。大明神が掲載したようです。一度見ておいてください」
　まことは、お母さんにＨＰを見せてもらった。下村隊長が読み上げた手紙が掲載されてあった。
　お母さんが、先に気がついた。
「まこと、ここを見て。妙見山自然守護大明神の印がある。ほんとに大明神が発信したんだね」
「お母さん、ＨＰに載せたら、みんなに読まれてしまうね。でも、これって、なぜか楽しいね」
「そうね。ＢＶＳ隊の舎営の様子が世界に発信されているってことね。私たちも楽しいけど、他の人も楽しくさせるね」
　まことは、少し考えてから言った。
「他にも何かＨＰに掲載されるのかな」
「さあ、どうかしら」
「いっぱい、掲載したらおもしろい。おじいちゃんやおばあちゃんにも連絡しておいて、見てもらおうよ」
「それはいいわね。久しぶりに電話をしてみようか」
「うん、電話しよう」
　それから、２人はお婆ちゃんに電話をして、まことのボーイスカウトの活動について説明した。話がはずんで長い電話になった。

【2017 年 7 月 12 日　14:20】
　まことが、学校から帰ると机の上に１通の手紙が置かれてあった。
「あ、僕の名前だ。筆で書いてある。なんだろう」
　手紙の裏を見ると、妙見山自然守護大明神と書かれてあった。これでなんの手紙かすぐ分かった。
「おかあさん！　手紙が届いたよ。大明神からの手紙だよ」
と叫びながら、お母さんのいる居間に向かって走った。

「これこれ、見て、僕に来ているんだ」
「大明神は約束通りに手紙をくれたのね。中を開いてみたら？」
「どんな手紙かな。あ、テープで留めてあるのが取れない。お母さん取ってよ。早くしてね」
「少し待ってよ。う〜ん。取れたわ。はい、自分で出して」
「紙が入っている」
「それが手紙よ」
「あぁ、出てきた」
「じゃあ、読んでみて」
「ああ、わかりやすく、漢字にひらがなが打ってある」
　そして、まことは、以下の文面を読み始めた。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

平成２９年７月吉日

山本まこと君

　私は、８月から妙見山のあたらしい自然守護大明神になることになっている
　わたし　　みょうけんさん　　しぜんしゅごだいみょうじん

ものです。

　下村隊長に私をたすけてくれるようにお願いをしたところ、まこと君がたす
　しもむらたいちょう　わたし　　ねが　　くん

けてくれると聞きました。そこで、私からお願いをさせていただきます。
　　き　　わたし　ねが

　私は、大明神になるために特別な秘宝を探さないといけないです。
　わたし　だいみょうじん　　とくべつ　ひほう　さが

　まこと君は、自然の中で遊ぶことが得意と聞きました。きっと、私に必要な
　　くん　しぜん　なか　あそ　　とくい　き　　わたし　ひつよう

秘宝を探し出してくれると思います。どうか、私を助けてください。
ひほう　さが　だ　　おも　　わたし　たす

７月２９日に妙見山の頂上にあるお宮で待っています。
みょうけんさん　ちょうじょう　みや　ま

かならず、来てください。
き

おねがいします。

新しい妙見山自然守護大明神
あたらしいみょうけんさんしぜんしゅごだいみょうじん

〜〜　しぜんのなかであそぼう　しぜんをたいせつにしよう　〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

まことは、ここで発見したことがあった。
「わかったよ、お母さん。妙見山の頂上で大明神に会うんだよ。お宮で待っていると書いてある」
「よく気がついたわね。まこと、えらいぞ！」
まことは照れ臭そうにした。
お母さんは続けた。
「きっと、自動車で頂上まで登れるのよ。その近くね」
「山の頂上まで車で行くの？　それなら楽チンだな。頂上はどうなっているのかな。大明神は、どこに住んでいるのかな。なんだか、楽しいね。楽しさがいっぱいだ」
「それはよかったわね」
「お母さん、大明神ってどんな服を着ているのかな。普通の服かな」
「それは、隊長の友だちだから普通の服を着ているわよ」
「それじゃあ、大明神かどうかわからないよ。びっくりするような服を着てほしいな」
「大明神はどうするのかな。う〜ん。そうね。じゃあ、まことの希望を伝えたらどうかしら。手紙の後ろに大明神の住所が書いてないわね。隊長に送ってＨＰに載せてもらったら、大明神が気がつくわよ」
「お爺ちゃんもお婆ちゃんも読んでくれるよね」
「そうだったわね。」
今回のＨＰや手紙で家族が一緒に楽しめる話題ができた。

【2017 年 7 月 13 日　17:30】
　まことは、大明神に自分の気持ちを伝える言葉を手紙にした。もちろん、お母さんに手伝ってもらった。

〜〜
妙見山自然守護大明神さま

　僕は、豊中第２団ビーバー隊の山本まことです。
　今日、大明神さまからの手紙を頂きました。
　とてもびっくりしました。それと、うれしかったです。ありがとう。
　大明神と会う場所が分かってよかったです。お宮さんの場所はわからないけど、隊長が連れて行ってくれます。
　いくつか、大明神にお願いしたいことがあって、手紙を下村隊長に渡しました。
　楽しみにしているので、どうか願いを叶えてください。
・大明神は、どんな服を着ているのですか。今度、お会いする時は、大明神の仕事をするときに着る服で来てください。
・頼まれたことは、秘宝を探すことですね。僕たちは探すことは得意です。きっと探してあげます。安心してください。

7 月１３日
山本まこと
〜〜

　まことは、これを隊長に渡せば、ＨＰに掲載してくれると考えた。
「お母さん、隊長にしっかり頼んでよ。僕の手紙が大明神に届くようにしてほしいって。それに、僕の手紙がＨＰに載ったらうれしいな。友だちにも自慢できるわ」

【2017 年 7 月 13 日　20:40】
　まことの願いは、その日のうちに実現した。ＨＰには、こう書かれていた。

〜〜
妙見山自然守護大明神殿

下村です。
こんばんは。
あなたが送ってくれたスカウトへの依頼状を隊集会でスカウトに読み聞かせました。全員が、「妙見山に行こう」と言ってくれました。これで、あなたの依頼を実現できると思います。それから、あなたがスカウトに手紙を出してくれましたね。その手紙を読んだスカウトからお願いが送られてきました。それをあなたにＨＰで伝えます。
それと、そのスカウトは、ＨＰに私への依頼状が掲載されたことを家族で楽しんでいて、祖父母にも連絡して見てもらっているそうです。なんだか、楽しいことが起きています。あなたのお陰で、スカウトたちが、舎営が始まる前からわくわくした気持になっています。私も、とても気持ちがいいです。
それでは、スカウトのお願いを叶えてあげてください。
以下は、スカウトからの手紙の内容です。
（ここでは省略。前文を参照）
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

　この願いは、大明神に伝わったのでしょうか。
　まことは、返事が来ないかなと心待ちの気持ちが膨らんだ。
「お母さん、大明神から返事が届くといいね。楽しみだわ」
「きっと、返事をくれるんじゃないかな」
　お母さんは、こんなやり取りができたり、祖父母にもボーイスカウトの活動を感じてもらえることをうれしく思った。

【2017 年 7 月 15 日　18:30】
　ＨＰには、妙見山の頂上の写真が掲載された。これは下村隊長が掲載したものだ。この日は、下村隊長と副長が妙見山に下見に出かけたと書かれてあった。大明神からの手紙がＨＰに掲載されたので、これを利用して隊長からも情報を掲載して、スカウトたちにより楽しんでもらおうと思ったからだ。
　下見は、豊中から妙見山の頂上までの移動時間を確認するためだった。約１時間２０分。道路は、４２３号線の金石橋から山道に入るコースだ。リーダーたちは、妙見山には歩いて登る経験ばかりで車で登ったことがない。隊長は、所要時間をきちんと把握しておく必要がある。
　お宮があるという場所からの景色の写真はあったが、お宮の写真は意図的に

掲載しなかったと書かれてあった。スカウトの楽しみを残しておくためだ。
　それだけでも、十分にわくわく感が強くなったと思われる。
　まことは、お母さんとまたＨＰを見ていた。
「お母さん、頂上は、広くなっているんだね」
「そこは、頂上よりも少し下の方だね。駐車場は広いところにあるのよ。頂上は、ここだと思うよ」
と言って、お母さんは頂上と思われるその場より高い場所を指で押さえた。
「そうか、車ではここまでしか登れないんだ。お宮さんはどこにあるのかな」
「それは、みんなには教えないようにしているのよ」
「どうして？」
「だって、まことが、お宮さんを探す楽しみがなくなっちゃうじゃない」
「そうか、ははは」
「隊長は、よく考えているのよ。楽しむところと、楽しみを残しておくところを別にしているの」
「さすが、下村隊長だね」
　指導者以外は、初めて行くことになる妙見山の頂上あたりの写真は、具体的なイメージができて、ますます興味が膨らんできた。お宮さんや大明神など、はっきりしていないことで頭がいっぱいになった。ときどきＨＰに掲載される情報は舎営の興味を沸き立たせている。

豊中第２団の HP（7 月 15 日）から引用

【2017 年 7 月 20 日 18:00】

この日は、下村隊長から、「大明神が、ＨＰに秘宝の写真を掲載した」と連絡があった。

大明神は、スカウトに依頼した秘宝について古い写真が見つかったので、それを参考に探してほしいと考えたようだ。

豊中第 2 団の HP（7 月 20 日）から引用

早速、HP を見てみた。写真とコメントがあった。

「下村隊長及び豊中第２団のスカウトへ

私は、８月から妙見山の新しい自然守護大明神になることになっているものです。

皆さんとお会いする日が来週に迫ってきましたね。皆さんの準備は進んでいますか。ボーイスカウトは「そなえよつねに」がモットーでしたね。あ、ごめんなさい。ビーバースカウトのモットーは「なかよし」でした。なかよく、秘宝を見つけてください。

私は、あれから秘宝のある場所を調べていました。それで、仕事場の机を整理していたら写真が出てきたんです。びっくりしました。でも、よかったですよ。秘宝は１つかと思っていたら、３つでした。３つの試練は、３つの秘宝だったのです。
秘宝の写真は見つかりましたが、まだ、場所は分かっていません。でも、皆さんが写真を見れば、具体的なイメージが浮かぶでしょう。私は、できるだけ情報を提供させていただきます。

写真は、古いです。秘宝の外側だけで何が書いてあるかは見えません。残念です。何が書かれているのでしょうか。私は誰にも教えていただけないので、秘宝を見てからすぐに内容が理解できるかどうか心配です。８月１日まで、時間がありません。秘宝を持っていることは必須条件です。でも、内容を理解して行動できることはもっと大切です。大明神としてふさわしい考え方や振る舞いが大切です。ビーバースカウトと同じですね。皆さんは、りっぱなスカウトになっていますからね。本当に羨ましいです。私も頑張ります。

それから、注意してほしいことがあります。皆さんは、秘宝を手に入れても中を見てはいけないです。先輩から強く言われています。これは大明神だけしか見てはいけないことになっています。
勝手なことばかり言ってすみません。
どうか、秘宝を必ず探し当ててください。

追伸：下村隊長は、妙見山に行ってくれたんですね。ＨＰを見ました。いいところでしょ。お宮さんの場所もスカウトだったら、すぐに見つけられると思います。なにしろ、スカウトは観察力に優れていますからね。秘宝だって簡単に見つけてくださると信じています」
とコメントしてあった。
まことは、お母さんと一緒に見て、言った。
「お母さん、これは巻物だね。外だけで中がわからないよ。中に書いてある写真はないね。こんな巻物はどこにあるのかな。山の中のどこかにあるのかな。難しいよ」
「そうね。見当がつかないわ。それをまことたちは探し出すんでしょ。すごいな」
「全然わからないよ。大明神に『安心してね』って言ったけど、僕たちが不安になってきたよ」
「そんなに心配しなくてもいいのよ」

「どうして？」
「それは、下村隊長に任せておけば安心よ」
「そうかなぁ」
「大丈夫よ」
　まことの心に不安が残ったが、わくわく感は今まで以上に大きくなった。

【2017年7月22日　12:00】
　１週間前の土曜日のお昼に、下村隊長から「大明神に応援メッセージを出そう」という提案がＨＰに掲載された。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
スカウト及び保護者へ

　下村です。
　こんにちは。

　１９日に（仮名）山本まこと君の依頼と気持を大明神に伝えました。また、２０日には、大明神から秘宝の写真が送られてきましたね。なんか古いものですね。中に何が書いてあるか知りたいですね。ああ、隊長は早く大明神に会いたくなってきました。みんなは、どんな気持ちですか。
　私たちで、頑張って秘宝を探してあげましょうね。でも、秘宝がどこにあるかはまだ分かっていません。秘宝の場所は、大明神が一生懸命探していると思います。
　みんな、大明神に応援メッセージを送りませんか。「下村です。頑張れ、大明神！！」なんてね。なんでもいいです。一言でもいいですよ。自分の言葉をＨＰで伝えましょう。きっと、大明神も勇気が湧いてくると思います。返事もすぐ送ってくれると思います。

　隊長に応援メッセージをメールで送ってください。
　それと、明日の隊集会のあとに、応援メッセージをスカウトにお聞きしたいと思います。その時でもいいです。それを記録してＨＰに掲載します。考えておいてください。
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

【2017 年 7 月 23 日　16:00】
　今日は隊集会。大阪の阿倍野防災センターの見学だ。
　スカウトたちの顔が、いつもと違っていた。大明神から手紙を受け取ってから、少し気持ちが楽しくなっているようだ。
　下村隊長は、大明神にもスカウトの様子を伝えてあげないといけないと思った。
　スカウトたちは、帰りに舎営のしおりをもらった。簡単なスケジュールと持ち物リストだ。そろそろ、準備を始めないといけない時期だ。特別な持ち物としては、７月２日の隊集会で作成した舎営で遊ぶお土産袋やパチンコがリストに載っていた。
　それから、下村隊長が、応援メッセージに付いてスカウトに聞いた。それをまとめて、ＨＰに掲載した。

〜〜
妙見山自然守護大明神殿

　下村です。
　こんばんは。

　大明神が送ってくれた秘宝の写真は、スカウトの秘宝を探し出す意欲を高めましたね。スカウトたちは、やる気満々になってきました。
　今日は、隊集会で阿倍野防災センターを見学しました。見学前のお昼ご飯のときに、スカウトたちが大明神への応援メッセージを考えてくれました。ここに掲載します。

「がんばれ、大明神！！！」　美波
「フレー！フレー！　大明神！！」　　友紀
「大明神、頑張れ！！！」　稀
「頑張れ！　まことも秘宝探しをがんばるぞ！」　まこと

　隊集会をお休みした幹君のお母さんからメールが届きました。
「大明神様へ
　　頑張って秘宝の場所を探してくださいね。
　　少しドキドキするけど僕達も頑張って秘宝を探します」
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　幹と幹のママ

２９日と３０日は、豊中第２団の元気なビーバースカウトと家族、そして指導者が、妙見山に行って、大明神の依頼を実現します。スカウトたちは、大明神にお会いするのをとても楽しみにしています。

大明神、本当に頑張ってください。

〜〜

【2017 年 7 月 24 日　20:00】

まことが新しいことがないかなとＨＰを見ていたら、突然、大明神から緊急連絡の書きこみが現れた。

「わっぱるの森にいのししの子どもが多数侵入したので、見つけたら知らせるか、捕まえてほしい」

と「ＷＡＮＴＥＤーおたずねものー」のチラシが掲載されていた。

「私は、大明神です。わっぱるの知り合いから回覧が送られてきました。最近、いのししの子どもが、わっぱるの森で見つかるようになったそうです。皆さんが舎営で行かれた時には、十分注意してください。もし、かわいくて捕まえられるようだったら、協力して捕まえてください。交換に懸賞金が出ると書いてあります。」

豊中第 2 団の HP（7 月 24 日）から引用

　まことは、うれしそうにお母さんを呼んだ。
「お母さん、かわいいよ。このいのししの子ども」
「うり坊じゃない」
「いのししの子どもをうり坊って言うの？」
「野菜の瓜に似ているからよ。これでも成長すると怖いイノシシになるのよ。でも、かわいいね。それがどうかしたの」
「うん、わっぱるの森にたくさん出てきたんだって。捕まえたら懸賞金がもらえるよ」
「懸賞金？」
「１０，０００ドルだって」
「１０，０００ドルってすごいお金じゃない。ん、でもわっぱるドルね。ははは、１０，０００ドルは、飴一つ分のお金だって」
「なんだ。つまらない」
「スカウトは報いを求めないのよ」
「ははは、そうだったね」
　舎営まで、残り９日間になった。

【2017 年 7 月 26 日　12:00】
　もう、夏休みに入っていた。まことは、午前中早い時間に宿題を少し進めてから、友だちの家に遊びに行っていた。昼前に帰ってきてから、ＨＰを見た。最近は、一日に何度もＨＰを見るようになっていた。そこで、ＨＰに大明神からのまことへの返事が掲載されていることに気がついた。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
まこと君へ

　まこと君がＨＰで私に依頼したことについてお答えします。
１.　大明神は、どんな服を着ているのですか。今度、お会いする時は、大明神の仕事をするときに着る服で来てください。

　やっと大明神の衣装ができました。８月１日に着る衣装です。これは、ぜひスカウトの皆さんにも見てほしいと思っています。ですから、皆さんとお会いする時は、この衣装を着ていきます。カメラを持ってきてください。皆さんと

記念撮影をしましょう。

２．　頼まれたことは、秘宝を探すことですね。僕たちは探すことは得意です。きっと探してあげます。安心してください。

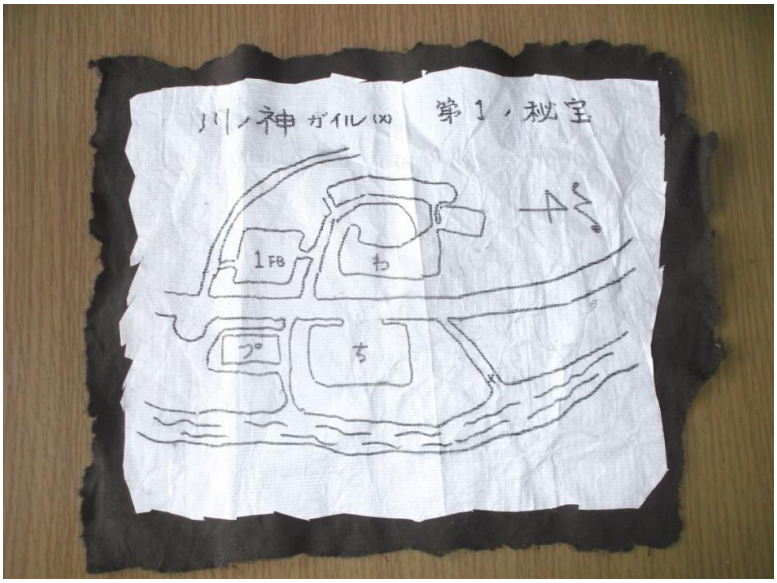
　頼りにしていますよ。８月１日まで時間がありませんから、見つからないと大明神になることができなくなってしまいます。よろしくお願いします。

下村隊長初め参加されるスカウト、保護者の皆さんへ

　皆さん、よろしくお願いします。
　7 月 29 日に、皆さんの元気な顔を見られることを楽しみにしています。
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

「やったよ、やったー。お母さん。ＨＰを見てよ」
「何が載っていたのかな？」
　お母さんは、それを知っていた。
「うれしい。大明神が僕に返事をくれたんだ。すぐにお爺ちゃんとお婆ちゃんに知らせようよ」
「それがね、さっきお婆ちゃんの方からＨＰを見たかって電話があったのよ。お婆ちゃん、毎日ＨＰを見ているみたいよ」
「そうか。お婆ちゃんは楽しみにしているんだね。大明神の衣装は新しく作ったんだ。大明神もきっとわくわくしているんだね。」

【2017 年 7 月 28 日　18:30】舎営前日
　いよいよ、舎営は明日に迫った。まことは、準備万端だ。明日の朝に弁当を作れば、出発だ。
　夕食が終わったころに、下村隊長から連絡がきた。大明神が、川の神と会う場所の地図をＨＰに掲載したという。
「おお、この地図はなんか雰囲気が出てるな。これでどこにあるかはわかるのか。安心したなぁ」
　地図は、茶色の布に白い紙のようなものが貼られてあり、黒い線で地図が書かれてある。知らない場所なので見ただけではわからない。これで見つけるのは現地に行ってからだろう。



豊中第2団のHP（7月28日）から引用

「この布は、秘宝の布と同じみたいよ。そう見えないかな」
「え、あ、本当だ。同じ布だよ。じゃあ、間違いないね」
　まことは、今日はなかなか眠られない夜になりそうだ。でも、９時前にベッドに入ったら、すぐに寝てしまった。

舎営が始まった
妙見山自然守護大明神を助けよう

【2017 年 7 月 29 日　9:00】舎営当日
　今日は、快晴だ。大曽公園は、くまゼミの元気な声でいっぱいだ。
「シャーー、シャーー、シャーー」
　全員が、大曽公園に集合した。自動車が４台、公園沿いに止まっている。
「グッモーニン！」
「グッモーニン！」
　みんな顔を見ては、元気に挨拶した。英語の挨拶は、２年前から続けている２団の特徴だ。いよいよ大明神が待つ妙見山に出発だ。
　下村隊長の合図で、全員が車に乗り込んだ。

豊中第２団の HP（７月３１日）から引用

【2017 年 7 月 29 日　10:30】
　車は、妙見山の駐車場に着いた。
「お母さん、ここは気持ちがいいね」
　まことは、車の外に出て妙見山の空気を吸って、自然を感じた。
「ほんと、ここまで車で上がれるなんて、すばらしい景色だわ」

豊中第２団のHP（７月３１日）から引用

スカウトや保護者は、車から降りると周りの景色に見とれていた。
大明神のお陰で、ここまで来ることができたのは、ラッキーだった。

駐車場の横に木が生い茂った丘がある。
集合した後で、下村隊長が、全員に告げた。
「まず、あの丘に登ってください。暑いから早く日陰に行きましょう。白木副長に付いて行ってください」
「じゃあ、１列のまま付いてきてください」
白木副長が、歩きだした。全員が付いて行く。丘に登ったところで、すぐに止まった。たくさんの樹木の日陰があり、涼しかった。
いよいよ大明神との対面だ。みんなは、はやる気持ちを抑えている。目はきょろきょろと周りを見回している。
ここで、下村隊長が、指示を出した。
「やっと来ましたね。妙見山の頂上は、すぐ向こうにあります。ここは涼しくて気持ちがいいです。舎営のテーマは、『しぜんがいっぱい』です。スカウトは、大明神のことばかり考えているかな。さあ、深呼吸してください。自然を感じましたか。
はい、じゃあ、お楽しみの大明神に会いましょう。まもなく大明神と会う時間です。大明神と会う場所は、お宮さんと言っていましたね。隊長は、どこにあるか知りません」
「うそー、隊長は、この前下見にきたんでしょ。写真を載せていたじゃない」と、まことはＨＰで見たことを話した。

「まこと君は、ＨＰをよく見ていたんだね。これは、場所を探すゲームだよ。自分で探した方が面白いでしょ。この近くにあるはずです。どこにあるかを親子単位で探してもらいます。見つけたら戻ってきて下さい。ここで、全員に笛で連絡します。笛が聞こえたら全員ここに戻ってきてください。いいですか。では、始めてください」
「ピーーー」と笛を鳴らした。

　しばらくすると、稀親子が戻ってきた。
「隊長、見つけました。あそこです」
「おお、見つけたか。やったね。おめでとう」
下村隊長は、そう言ってからすぐに笛を吹いた。「ピッ、ピーーー」

「全員戻ってきたかの確認をお願いします」
と白木副長に声を掛けた。白木隊長は、すばやく確認して、返事をした。
「隊長、全員集合しています」
　そこで、下村隊長は、全員に向かって説明した。
「お宮さんは、稀ちゃん親子が見つけてくれました。では、稀ちゃん親子に誘導してもらってお宮さんまで行きましょう」

【2017 年 7 月 29 日　10:40】
　お宮さんが見えてきた。前に大明神が立っている。着物を来て、右手に杖を持っているから、間違いない。

豊中第２団の HP（７月３１日）から引用

「大明神だ、大明神だ」
　スカウトたちは、大明神に向かって駆け出した。
　大明神が、下村隊長に話しかけた。
「下村隊長、久しぶりです。よくきてくれました。うれしいなあ」
「顔が見えないけど、大明神だよね。ずいぶん立派な衣装ですね。神々しく見えるよ。大明神とは大役だね」
「でも、その前に試練があるんだ」
「わかっている。大明神を助けるために、これだけのスカウトと保護者が来てくれた。みんなに挨拶してください」
「ありがとう。じゃあ」

　大明神は、みんなの前にでた。
「では、大明神を紹介します。今度、妙見山自然守護大明神になる私の友達です。顔が見えないね。隊長は声で友達だと言うことが分かったけど、顔はわかりません。暑いのに大変ですね」
「８月になるまでは、顔を見せてはいけないというルールになっています。これも試練です」
「じゃあ、挨拶と大明神からの説明をお願いします」
「こんにちは。申し訳ないですが顔を見せるわけにはいきません。私は下村隊長の友達です。今度、この山、妙見山の自然を守る大明神になることになりました。そのためには、試練があります。『妙見山－自然３秘宝』を身につけないといけないということです。でも、『妙見山－自然３秘宝』、この秘宝が何かわかりません。どこにあるかだけわかりました。それで、みんなに探し出してほしいのです。
　『妙見山－自然３秘宝』は、わっぱるの森にあることがわかりました。だから、今日は皆さんにわっぱるに行くことにしてもらいました。わっぱるの森で、『妙見山－自然３秘宝』を探してください。
　私は、明日の午後にわっぱるの森に行きます。そこで、『妙見山－自然３秘宝』を頂けるように、よろしくお願いします」
「みんな、大明神のお願いは分かりましたか。大明神を助けてあげましょうね。じゃあ、大明神に助けてあげることを宣言してあげましょう。『秘宝探しは、ビーバー隊にまかせなさい』です。せーの」。
「秘宝探しは、ビーバー隊にまかせなさい！！」
　全員が大声を出した。
「ありがとう。安心しました。よろしくお願いします。それで、まず最初に行

く場所の地図はあります。昨日、ＨＰに掲載しました。地図の場所に行くと『川の神』が説明してくれるはずです。

『川の神』を見つけるには、合言葉が必要です。川の神は、ときどき独り言を言っています。これを聞き逃さないようにしてほしいです。川の神は、『川の流れは速いぞ。ああ、危ないな。川の流れは遅いぞ。これなら大丈夫』と言っています。その人を見つけたら、『合言葉は、ブルーリバーかな』とその人に言ってください。それで、『いやいや合言葉は、レッドリーバーだよ』と返事したら、その人が川の神です。地図を隊長にお渡しします。よろしくお願いします」

「みんな、合言葉はわかったかな。大明神は忙しくて、これで帰ってしまいます」

「じゃあ、お先に失礼します」

「君は、もう少しで大明神になれる。頑張れよ！　それでは、全員で励ましましょう。『頑張れ、大明神』です。せーの」

「頑張れ、大明神！！」

「ありがとう。さようなら」

ビーバー隊は、わっぱるの入所時間まで、この丘で、「大声発表会」、「もりの福笑い」のゲームを行い、昼食を食べた。

豊中第２団の HP（７月３１日）から引用

【2017 年 7 月 29 日　14:10】
　ビーバー隊は、１３時４５分にわっぱるに到着した。オリエンテーリングが始まった。
　いつものように、寝具の使い方と注意事項の説明があった。
　そのあとだ。所員が、ちらしを手に持っていた。
「今日は、特別なお知らせがあります。このちらしを全員に配ります。はい、配ってください。お願いします。
　ちらしは全員に渡りましたか。ちらしに、ＷＡＮＴＥＤおたずねものと書いてあります。うり坊です。いのししの子供ですね。かわいいです。このうり坊が、わっぱるの森にたくさん入り込んでいます。見つけたら捕まえて持ってきてください。わっぱる危機管理センターに持ってきてくれたら、１００００わっぱるドルをお渡しします。でも、これはお金の価値が小さいので、代わりに飴一つと交換させてもらいます。危ない時は無理しないでください。よろしくお願いします」
「がんばりま～す」
とスカウトが元気に答えた。

　下村隊長が、さらに続けて説明した。
「みんなは知っているよね。大明神がＨＰに掲載してくれました。あのうり坊です。ほんとだったんだね。まだ、うり坊が残っているようです。見つけたら捕まえましょう」

【2017 年 7 月 29 日　15:30】
　スカウトたちは、川遊びのために川の近くまでやってきた。
　先頭を歩く隊長が、周りを見回しながら言った。
「ここで、川の神を見つけたいね。地図によるとこのあたりだよ」
　スカウトたちは、「見せて、見せて」と隊長の地図を覗き込んだ。
　下村隊長は、きちっと説明した。
「今いるところが地図に印がある場所だ。川の神はどこにいるかな。いいかい。川の神の独り言を聞いたら、すぐに『合言葉は、ブルーリバーかな』と言ってください。独り言は、『川の流れは速いぞ。ああ、危ないな。川の流れは遅いぞ。これなら大丈夫』だよ。いいですか。『合言葉は、ブルーリバーかな』って言うんだよ。分かった人？」
「はーい。I can do it.」

豊中第２団の HP（７月３１日）から引用

「I can do it.」は、今日の英語の言葉だ。

そこへ、お年寄りがぶらぶらやってきた。周りを見ている。スカウトたちの顔をじろじろ見ながら、川の方へ歩いて行った。

まことは、隊長の顔を見て言った。

「隊長、あの人あやしいよ」

「そうだよ。あやしいよ」と稀も言った。

「うん、怪しいね。でも何も言っていなかったよね」

「そうか、川の神は、独り言を言うんだよね。あの人は違うかな」

「ざんね～ん」

とみんながっかりした。

そこへ、またあやしい人が戻ってきた。今度は少し様子が変わっていた。手に杖を持っている。あの大明神も杖を持っていた。

今度は、あやしい人は、何かを言いながら歩いてきた。空を見たり、下を見たり、スカウトの顔を見たり、変な様子だ。

「川の流れは速いぞ。ああ、危ないな。川の流れは遅いぞ。これなら大丈夫」

スカウトたちは、顔を見合わせて、にこっと笑いがでてきた。

まことが、焦りながら言った。
「あ、あ、なんだったっけ」
「合言葉は、ブルーリーバーかな」と隊長が小声で言った。
そして、スカウト全員が言った。
「合言葉は、ブルーリーバーかな」
すると、返事があった。
「いやいや合言葉は、レッドリーバーだよ」
「やったー！」
スカウトたちは大喜びだ。

下村隊長が、その人に挨拶をした。
「失礼ですが、あなたは川の神でいらっしゃいますか」
「いかにも、私は川の神だ」
「よかった。私たちは、妙見山自然守護大明神になられる方から、秘宝を探してほしいとあなたを探していました。このとおり、地図も持っています」
「確かに、間違いないな」
「よろしくお願いします」
「私が持っている秘宝を授けるということかな。どんな秘宝かは、君たちが考えるんじゃ。今から川で遊ぶのだな。川で遊べば、きっと見つけることができる。いや、君たちが持っている力を存分に発揮することで見つけることができるのだ。川遊びが終わった時に私から第一の秘宝を渡そう。もしも、力を存分に発揮できないときは、残念だが私はこの場にいないであろう。さあ、チャレンジじゃ。頑張ってくれ。川遊びを楽しんでくれ」
「わかりました。頑張って秘宝をゲットします」
下村隊長は、今度はスカウトに向かって言った。
「さあ、それでは、川遊びをしたら秘宝をもらえるということがわかったよ。でも、遊ぶだけでいいのかな。川の神は、なんて言ったかな？」
「？？？？」
「確か、力を存分に発揮できないときは、川の神はいなくなっちゃう。力を存分に発揮しないといけないじゃない。力を発揮するっていうことは、どういうことかな。川で遊ぶのに力を発揮することは、君たちが持っている力は何ですか。少し難しいね。お母さんたちに聞いてみようか。誰か分かるお母さんはいますか？」
保護者たちは、次々と予め隊長から頼まれていた言葉を発した。
「せっかく川で遊ぶんだから一生懸命遊ぶ」
「安全に気を付けて楽しく遊ぶ」

「そうだよ、危険なことはしない、危険なところには行かない」
「みんなが持っている力は、元気かな」
「大きな声を出したらいいんじゃない」

　下村隊長は、もう一度スカウトに話しかけた。
「ありがとうございます。いろいろでましたね。みんな、わかる。ほんとうに分かる。秘宝をもらわないといけないからね。元気を出せばいいのかな。きっとそういうことかな。では、しっかり遊びましょう。はい、お待たせしました。今から川遊びを始めます。白木副長、説明をお願いします」

【2017 年 7 月 29 日　16:15】
　白崎副長が、川遊びの終了の合図をした。全員が戻ってきた。
「あ、川の神がまだいるぞ」
「イエーイ！！」
　そのとおりだった。川の神は、まだ、その場にいた。下村隊長に向かって言った。
「川遊びが終わったようだな」
「ええ、今終わりました。ということは、秘宝を頂けるようですね」
「そうじゃ、合格だ」
「やったー。イエーイ、みんなでせーの」
「イエーイ！！」
　元気な声が響いた。
「それでは、秘宝を渡そう。この巻物の中に秘宝が入っている。この秘宝は大明神になる者しか見ることはできない。今度大明神になる者に渡してくれ」
「ありがとうございました。それでは、次はどこへ行けばいいかご存知でしょうか」
「うーん。妙見山自然守護大明神は、自然を守る神様だから、自然に関係ある。私は、川の神だ。他には火の神と森の神がいる。火に関係があると思うよ」
「火は自然ですか？」
「自然は、何度も山火事が繰り返されて、蘇っている。長い間自然を守るには、時として火が必要な場合もある。火も自然の一部だ」
「ありがとうございました」
「では、わっぱるの森を楽しんでくれ、さらばじゃ」
「さようなら。みんな、お礼を言おうよ」

「ありがとうございました！！」
「よし、みんな、一つ目の秘宝をゲットしました。よく頑張ったね、ご苦労さん」

【2017 年 7 月 29 日　19:15】
　全員が、夜プロのために第２ファイヤー場に集合した。スカウトは、お風呂に入り、夕食も残らず食べて、すっきりして夜プログラムに参加した。
「今から夜プロのキャンプファイヤーを始めます。大明神に頼まれた秘宝を探さないといけないが、火の神は来ないらしい。どこにあるのかな。とにかく暗くなってきたから、キャンプファイヤーを始めます」
　また、ここでも保護者が隊長に頼まれた言葉を話した。
「キャンプファイヤーは、火ですよ」
「キャンプファイヤーで秘宝をゲットできるはずよ」
「でも、火の神様もいないし、どうしたらいいのかな」
　隊長が答える。
「川では、みんな頑張ったよね。キャンプファイヤーもみんなで頑張ると楽しい。頑張ることが大切かな」
　保護者全員が、「頑張りましょう」と口をそろえて言った。

　白木副長が、キャンプファイヤーの準備について説明した。
　火の回りを取り囲んで全員が座る。ベンチの上に腰かけるように指示している。正面に大きな椅子が置かれてある。そこは、営火長が座るところで、今は椅子だけが置かれてある。
「皆さん、このキャンプファイヤーは、私がエールマスターを担当します。楽しい時間を過ごすために、協力してください。間もなく営火長が現れます。営火長の話が終わると、点火します。火が燃えだしたら、大きな声で歌い始めてください」
　やがて、ファイヤー場の高い方から人影が動きだした。
「あ、誰か来る」と小さな声が聞こえた。
　エールマスターが、「シーーー」と注意した。
　人影は、杖をつきながら、全員が座っているベンチの後ろ側を静かに歩いて、椅子のところまで進んでいく。真っ赤な衣装を付けている。できるだけ顔が見えないようにしているのは、どうしてだろうか。椅子の前に立つと、静かに話し出した。全員が、じっと聞いている。

豊中第２団の HP（７月３１日）から引用

「私は、わっぱるの森に住む火の神だ」
　すぐに、幹君が大きな声で言った。
「火の神だって。イエーイ」
　エールマスターも続けて声を出した。
「火の神が見つかったぞ。イエーイ。もう一度みんなで」
「イエーイ」
「なんじゃ、騒がしいな。静かに話を聞いてくれよ。今から、君たちにとって大事な話をするのだ。
　夕方、山の神に会ったときに、ビーバー隊が火の神を探しているらしいということを聞いた。それに、今日はキャンプファイヤーをやるというので、私がわっぱるの森の代表として参加することにしたのだ。
　私たち神の仲間は、わっぱるの森を大切に育てている。君たちもリーダーやお母さんに大切に育てられているだろう。君たちは、お母さんやお父さんを大切にしないといけないぞ。他にも大切にすることはいっぱいある。なんでも大切にしないといけない。「もったいない」の精神だ。
　そんな話は別にして、さあ、私も一緒に楽しませてくれ。
　では、火の神による火祭りの開始だ。火の用意をしてくれ」
　点火役が、火を高く上げる。

そこで、営火長が合図をした。
「点火！！　ファイヤー！」

坂口副長のエールマスターの指示で、ゲームや歌が進んでいく。

まことが一番楽しかったのは、宇宙からスカウトの募集に現れて、みんなで盛り上がったリーダーのスタンツだ。
隊長が、前に出てきて始まった。

「こんばんは、私は、あの（空を見上げる）スカウト星からやってきた「蛍の光」です。
地球に仲間を探しにやってきました。
地球には、ボーイスカウトが４０００万人もいるという情報を、宇宙のコスモスネットで見ました。
さあ、いっぱい仲間を増やして、スカウト星に帰ろう。
お、あそこを歩いているのは、スカウトじゃないかな。
（Aが歩いてくる）
Ａ　：ハロー。
隊長：ハロー。あなたは、もしかしてこれですか？（スカウトサインをする）
Ａ　：ヤッター。これだよ。（スカウトサインをする）
隊長：ヤッター。ヤッター。ヤッタースカウト。（ン）、ビーバー！
　　（こぶしを作り、（ン）で脇を付けて、ビーバーで、右手を上げる）
Ａ　：待ってた。ホイホイ。ヤッタースカウト。（ン）、ビーバー！（右手を上げる）
隊長：それでは、あなたは、私と一緒にスカウト星に行ってくれるんですね。
　　（ン）、ビーバー！（右手を上げる）
Ａ　：行くーよ。行く行く。ヤッタースカウト。（ン）、ビーバー！（右手を上げる）

（２人が並んで、左手を左の人の首後ろに置く。隊長がAの首後ろに手を置く。）
隊長：みなさん、うれしいですね。仲間が一人増えました。
隊長・Ａ：ヤッター、ヤッター。ヤッター、僕たち。スカウト仲間だ。
　　（ン）、ビーバー！（右手を上げる）
隊長：あれ、あそこにもスカウトがいるぞ。

こんな調子で、リーダーが全員出てくる。
（人数分やる）

隊長：あれ、そういえば、目の前にいっぱい居たんだ。気がつかなかったなあ。

みんな、もう覚えたかな。覚えているよね。
みんなもスカウト星に行ってもらうぞ。さあ、いいですか。
？？：しーん
隊長：さあ、ハローと言ってください。せーの
全員：ハロー。
隊長：ハロー。あなたたちは、もしかしてこれですか？（スカウトサインをする）
（「ヤッター。これだよ。」）
全員：ヤッター。これだよ。（スカウトサインをする）
隊長：ヤッター。ヤッター。ヤッタースカウト。（ン）、ビーバー！（右手を上げる）
（「待ってた。ホイホイ。ヤッタースカウト。（ン）、ビーバー！」）
全員：待ってた。ホイホイ。ヤッタースカウト。（ン）、ビーバー！（右手を上げる）
隊長：それでは、あなたたちは、私と一緒にスカウト星に行ってくれるんですね。
（ン）、ビーバー！（右手を上げる）
（「行くーよ。行く行く。ヤッタースカウト。（ン）、ビーバー！」）
全員：行くーよ。行く行く。ヤッタースカウト。（ン）、ビーバー！（右手を上げる）

（全員が隣どうしで、同様）
隊長：みなさん、ありがとう。これでスカウト星は、スカウトでいっぱいになる。
（「ヤッター、ヤッター、ヤッター、僕たち。スカウト仲間だ。（ン）、ビーバー！」）
全員：ヤッター、ヤッター。ヤッター、僕たち。スカウト仲間だ。（ン）、ビーバー！

隊長：イエーイ、もっと大きな声で！　はい。
全員：ヤッター、ヤッター。ヤッター、僕たち。スカウト仲間だ。（ン）、ビーバー！

（営火長は、立ちあがって、手を大きく振る）
隊長：イエーイ、もう１回！　はい。
全員：ヤッター、ヤッター。ヤッター、僕たち。スカウト仲間だ。（ン）、ビーバー！

隊長：これが最後！　はい。
全員：ヤッター、ヤッター。ヤッター、僕たち。スカウト仲間だ。（ン）、ビーバー！

（でも、最後は意外な結末になる。）
隊長：はいー、ありがとう。本当に楽しかった。そして、よく分かりました。
みんなの団結力はすばらしい。感動しました。皆さんを誘ったのは間違いでした。
皆さんは、２団でこのまま頑張ってください。
私は、スカウト星で頑張ります。さようなら。See you again.

（駆け足で去っていく）
全員：さようなら、See you again.

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまった。

ハミングが始まった。これで営火長から終わりの言葉が送られる。
「ああ、楽しかったなあ。今日はありがとう。もう、お別れだな。早く帰ろう。じゃあな。お、いかん、いかん。もう少しで忘れるところであった。君たちは、わっぱるの森でキャンプファイヤーを楽しんだ。薪を燃やして遊んだ。これはのー、わっぱるの森を大切にしたことになるんじゃ。森の木々を育てることと、痛んだ木々を燃やすことは、同じくらい大切なことじゃ。そして、大勢の人がキャンプファイヤーで楽しむために、必要な量の薪を使っておる。ビーバー隊は、これを守った。そして、大いに楽しんだ。体も気持ちも爽快だな。
そこでじゃ、私は火の神だ。お前達は何かを探しているのじゃないかな。どうじゃ。聞いておる。誰か答えてくれ」
「第２の秘宝だよ」
「そうじゃろう」
「第２の秘宝を持っているんですか」
「おー、持っておるぞ」
ここで、隊長が大きな声で言う。
「イエーイ。みんなで、せいの」
「イエーイ！！」
「元気でいいぞ。よしよし。では、第２の秘宝を授けよう。ただし、これは大明神になる者しか見ることはできないぞ。次に大明神になる者に渡してくれ」
「ありがとうございました」
「では、さらばじゃ。第３の秘宝も頑張ってくれ」

【2017 年 7 月 29 日　20:15】
火の神が帰ってから、下村隊長が全員を集めた。
「みんな頑張ったね。ここで第２の秘宝が手に入ったよ。第２の秘宝はなんだろうね。とにかく、もうすぐだ。あとは、第３の秘宝だ。頑張ろう。残りは森の神だ。森といえば、この周囲の森のことだろう。明日は、森の神を探し出そう」

【2017年7月30日　9:30】
　今、うり坊を５頭捕まえたところだ。スカウトが第２ファイヤー場に到着すると、うり坊がたくさん休んでいた。
　スカウトは、一人一つのうり坊を確保し、わっぱる危機管理センターの札を持っていた指導者のところに集まったのだ。
「ここに何と書いてあるかな」
「ビーバースカウトのモットーは何ですか」
「はい、答えてください」
「なかよし」
「ＯＫです。はい、飴を上げます」
　飴一つでも、もらったらうれしい。みんなにこにこしている。
　うり坊は、小さなカードに書かれた絵であった。スカウトは、地面に置かれたカードを見つけて、うり坊を捕まえたのだ。他にも「日日の善行」というスローガンに関する質問のカードもあった。
　これは、観察力のゲームだった。それに、モットーとスローガンがいつでも言えるようにする訓練を兼ねていた。

　そこに、森の神らしい人が歩いてきた。
「困ったなあ、困ったなあ」
　隊長は、その人を見つけて近づいた。
「何を困っているのですか」
「実はなぁ、昨日森の散策をしていた時に、私の大切にしているものをどこかに忘れてしまったのじゃ。あれが無いと実に困るのじゃ」
「それはなんですか？」
「それはな、ある人に渡さないといけないものなのだ。このぐらいの大きさで丸まっている。ああ、困ったなぁ」
「たいそう、お困りですね」
「本当に困っている」
「私たちで何かお役に立つとしたら、その無くしたものを見つければいいのですか」
「そうしてくれると大いに助かるが、そんなことは無理だろうなぁ」
「スカウトたちは探すことは得意ですよ」
と保護者が言った。
「得意だよ」
「得意」
「得意だっぺ」

「なんか、期待できそうですね」
と森の神が言った。
「それはどこに忘れたのでしょう」
「それは、この第２ファイヤー場当たりのような気がするんだ」
「だから、ここを歩いているんですね」
「そうなんだ。邪魔して悪いなぁ」
「そんなことはないです。では、私たちが探してあげましょうか。なあ、みんな、いいよな。イエーイ、せいの」
「イエーイ！！」
「では、これから、ビーバー隊は忘れ物を探す作戦を開始する。『Looking for 作戦』だ」
「『Looking for 作戦』だって？」
　スカウトは、チンプンカンプンだ。
　団委員長が説明した。
「今日の英語は、『Looking for 作戦』です。探すという意味です」
　白木副長が、作戦を説明した。
「では、捜索隊を親子で５つに分けます」
　スカウトたちは、目の色を変えて、自分が先に見つけようとしている。
　下村隊長が、檄を飛ばした。
「みんな、やる気満々だね。全員で協力して、早く忘れ物を探してあげよう。見つかったら、笛を吹きますから、戻ってきてください。さあ、捜索開始！」
　ファイヤー場の地面のところには、忘れ物はない。周囲の樹木の中を探すことになる。
　しばらくして、友紀ちゃん親子が「あったよ。あったー！」と言いながら、走ってきた。
「あったよ。あったー！」
「隊長、見つけました」
「おお、良く見つけたな。えらいぞ」
　森の神が確認した。
「それじゃ、それじゃ。間違いない。ありがとう。どこにあったのじゃ」
「入口近くの木の枝だよ」
「ああ、そうか。ちょうど携帯に電話がかかってきたので、そこに掛けたんだ。長電話してしまい、電話が終わった時に忘れたまま歩きだしたんだ」
「じゃあ、全員を集合させる。ピッ、ピーーー」
　全員が戻って来た。
「あったのー、ざんねんー。だれが見つけたの？」

豊中第２団の HP（７月３１日）から引用

「友紀ちゃんだって」
とまことが答えた。
　下村隊長は、全員の成果として、全員にお礼を言った。
「みんな、お疲れさまでした。みんなのお陰で忘れ物は見つかりました。ありがとう」
　まことは、忘れ物が何かが気になっていた。
「忘れものはなんだったの」
　友紀ちゃんが答えた。
「秘宝だよ。だって、同じ形しているもん」
　森の神が答えた。
「なんで分かるの。今日がこれを渡す日なのじゃ」
「そうだね。第３の秘宝みたいだね」
と、また友紀ちゃんが答えた。
「どうしてそれを知っているのじゃ」
「実は、私たちは、今度新しく妙見自然守護大明神になる友達に頼まれて探しに来たんです。だから、あなたは森の神でしょ」
「いかにも、森の神だよ。私がこれを渡す相手は、君たちだったのか。よかったなあ。こんなに親切にしてくれて、本当にありがとう」
　今度は、下村隊長が答えた。
「私たちも森の神を探していたんです。第３の秘宝はどこにあるんだろうかと

考えていたんです。よかったです。よかったなぁ、みんな。イエーイ、せいの」
「イエーイ！！」
「それでは、探してくれたこの第３の秘宝をお渡しする。ただし、これは大明神になる者しか見ることはできないぞ。次に大明神になる者に渡してくれ」
　全員でお礼を言った。
「ありがとうございました」
「では、さらばじゃ。新しい妙見自然守護大明神によろしく伝えてくれ」
　そういうと、森の神は、ファイヤー場の下の方に歩いて行った。
「みんな、お疲れ様。でも、どうして第３の秘宝をもらえたのかな」
　すると、保護者がまた順番に言った。
「きっと、親切にしてあげたからだよ」
「みんなが協力しあったからだよ」
「森の神さまに優しかったからだよ」

　この後、「森の美術館」、「みんなのお宝を探そう」、「自然の大切さのお話」のプログラムが行われた。

豊中第２団の HP（７月３１日）から引用

【2017 年 7 月 30 日　12:30】

昼食を済ませたビーバー隊が、第２ファイヤー場へ戻ってきた。ここで閉村式を行うためだ。全員が整列した。まだ、何か終わってない気持がしていた。

下村隊長は、涼しい顔をして何かを待っているようだった。

そこへ大明神がやって来た。

友紀が大きな声を出した。

「あ、下から大明神がきたよ」

全員が、下側の入り口を見た。

大明神が、体を大きく動かしながらうれしそうな様子で上がってきた。まだ、顔を隠しているから表情はわからない。

「こんにちは。下村隊長、秘宝は見つかりましたか」

「しっかり、３つの秘宝を探したよ」

「ありがとう、よかったわ。ほんとにありがとう」

「じゃあ、早速、頑張って探してくれたスカウトから渡すことにします」

「はい、お願いします」

「では、第１の秘宝は、川の神を最初に見つけたまこと君」

まことは、隊長から第１の秘宝を受け取ってから、大明神に手渡した。

「大明神、これでりっぱな大明神になってください。でも、中身がわかりません」

豊中第２団の HP（７月３１日）から引用

　隊長が、続けて言った。
「川の神から、これは大明神しか開けれないと言われている。中身を教えてほしい」
「ありがとう。わかりました。開けてみましょう。うーん。じゃあ読むよ。『ビーバースカウトは　げんきにあそびます』と書いています」
と言って、秘宝を広げてみんなに見せた。さらに続けて言った。
「みんなは、川で元気に遊んだからでしょう」
　隊長が頷いてから言った。
「みんな、元気に遊んだよね。イエーイ、せーの」
「イエーイ！！」
「次は、第２の秘宝をお願いします」
「次は、火の神から貰いました。これは、幹君にお願いしよう」
　幹は、うれしそうに前に出てきた。
「大明神、これでりっぱな大明神になってください。それから、中身を教えてください」
「ありがとう。第２の秘宝を開けます。あ、『ビーバースカウトは、ものをたいせつにします』と書いています。これは、ファイヤーで薪を大切に燃やしたのかな」
「楽しいキャンプファイヤーをやりました。みんな楽しかったよね。イエーイ、せーの」
「イエーイ！！」
「最後は、第３の秘宝をお願いします」
「これは、森の神から貰いました。でも、森の神はこれを忘れてしまって、私たちが探してあげたんです。これを見つけた友紀ちゃんお願いします」
　友紀は、自慢そうな顔をして言った。
「大明神、これでりっぱな大明神になってください。大切にしてくださいね。でも、中身はわかっているよ」
「ありがとう。この中身がわかっているの？」
「『ビーバースカウトは、よいことをします』だよ」
　さすが、全員が気がついていた。第１と第２の中身を聞けば、スカウトならだれでも分かる。ビーバー隊の３つのきまりが秘宝になっていたのだ。
　下村隊長が、説明した。
「森の神の忘れものを見つけてあげたからだね。よいことをしたからです。やったね。イエーイ、せーの」
「イエーイ！！」
　隊長が、大明神に向かって感謝の言葉を伝えた。

「私たちが探したものは、３つの秘宝でした。これは、ビーバー隊が大切に考えていることです。スカウトの活動の目標なのです。これを舎営で体験させていただいて、ありがとう」

そこへ、川の神、火の神、森の神の３人がやってきた。

３人が、みんなの前に並んだ。

大明神が３人に向かって言った。

「みなさん、ありがとうございました。わたしは、皆さんのお陰で、８月１日に、新しい妙見山自然守護大明神になることができます」

川の神が言った。

「いやいや、それはビーバー隊のお陰だろう。みんな、元気に川遊びをしておったお陰だよ」

次に火の神が言った。

「そうだよ。ビーバー隊が、薪を大切にして楽しく遊んでくれたお陰だよ」

森の神も言った。

「それに、私は助けてもらった。ビーバー隊がとても親切にしてくれたお陰だよ」

大明神は、感謝の気持ちを伝えた。

「そうでした。そうでした。ビーバー隊は、『みんなとなかよくします』というビーバースカウトのやくそくも守ってくれた。ありがとう」

下村隊長が、大明神を励ました。

「りっぱな妙見自然守護大明神になってくださいね」

「ありがとう。頑張ります。ビーバー隊の皆さん、ありがとうございました。さっそく、妙見山にもどって新しい大明神にしてもらいます。また、妙見山に遊びにきてください。ありがとう。さようなら」

「さようなら」

舎営は終わったが・・・

【2017年7月30日　18:30】
　夕食の時、まことは、お父さんに舎営の話をしてあげた。
「お父さん、これで説明は終わり。今度の舎営は楽しかったよ」
「よかったな。お父さんは、舎営に行かなかったけど、ＨＰでなんとなく様子がわかっていて、まことの今の話も分かりやすかった」
「ほんと、私も忙しいのにいろいろあるのが煩わしいなと思っていたけど、自然に夢中になっていたのよ。まことも頑張っていたからね。今回は、長い間楽しめたわね」
　お母さんは、貴重な体験をした気持になっていた。
「僕、舎営に行く前からＨＰでいろいろあったから、ずっと楽しかったわ」
「お父さんは、実は会社で仲間にも教えてあげたんだ」
「そうなの。お父さんも気にしてくれていたんだ」
「当たり前だよ、お母さん。だって、まことが頑張っているんだもの。ＨＰにも載ったでしょ。会社でも自慢だったよ」
「結局、ビーバー隊の活動は多くの人の目に止まっていたということね。お婆ちゃんなんか、毎日見てたと言っていたもの」
「さすが、ＨＰだな。誰でも見られるということは、興味があるものはみんなが見ると言うことだ。参加したい人が増えるといいね」
「隊長は、いつもたくさんの仲間と活動しようと言っているよ」
とまことが言った。
「お父さんは、こう思うんだ。よい活動はＨＰでどんどん発信するといい。隊員募集にもなると思うよ。世の中の人が評価しやすいように『見える化』をするといいんだよ。仕事で同じことをやっているから、ボーイスカウトの活動もそう思うよ」
「見える化って何？」
と、まことが聞いた。
「世の中で、いろいろやっているけどなかなか内容が分からないことを分かりやすくすることだよ。写真やグラフがあると分かりやすいでしょ」
「そういえば、お父さん、学校でも授業参観が前からあったわね」
「それも、最近は出席する保護者が少なくなって、『オープンスクール』といって、いろいろ遊びも組み合わせて、楽しめるようにして、保護者に集まっても

らっているんだよ、」
「僕、なんとなくわかったわ。ビーバー隊は、すごいことをやったことになるの？」
「そうだよ。今回は面白いことをやったね。これを体験できて楽しかったよ」

【2017年7月31日　12:00】
　ＨＰに舎営の様子が写真で掲載された。2日分をまとめて掲載されていたが、大明神の出会いから、順番に時間が分かるように作られていた。

【2017年8月1日　12:00】
　まことは、舎営が終わっても、ＨＰを楽しみに見ていた。大明神がきっとＨＰで連絡してくれると思っているからだ。
「お母さん、大明神は、無事に大明神になれたかな」
「たぶん大丈夫だと思うけど。昼ご飯ができたから、先に食べましょう」
「でも連絡が来るとしたら、お昼じゃないかな」
「だって、大明神だって、昼ご飯を食べるでしょ」
「わかった。さっと食べるわ」
　13時になってから、ＨＰの内容が変わった。
「やったよ。大明神だ」
　ＨＰには、大明神からのお礼が書かれてあった。

〜〜〜
豊中第２団のビーバー隊に指導者及びスカウトの皆さんへ

新しい妙見山自然守護大明神

　こんにちは。
　本日、妙見山自然守護大明神の就任式が、妙見山上で行われました。これは自然に関わる役職のため、大自然が見える展望所で行われるのです。
　私が、大明神になるために秘宝を探してくれて本当にありがとうございました。
　私は、秘宝の教えを身につけました。

・ビーバースカウトは　げんきにあそびます
　自然の中で遊ぶことは、体にいいのです。それも元気に遊べば遊ぶほど、自然の力が体に吸収されます。私たちは、健康で強い体を持つことが幸せの第一歩になります。私は、これから５年間、皆さんのお役に立てるよう、健康な体で妙見山の自然を守っていきます。
・ビーバースカウトは　ものをたいせつにします
　大自然は、広大です。でも、限られた私たちの財産です。いつまでも妙見山を皆さんに楽しんでもらうためには、小さなことから大切にしないといけません。妙見山に訪れる方々に、自然の大切さを分かりやすく伝えることが私の使命だと思っています。多くの方に妙見山に来ていただいて、自然の大切さを理解して家庭に戻っていただきたいと思います。皆さん、いつでも妙見山に遊びに来てください。
・ビーバースカウトは　よいことをします
　私たちは、互いに助け合いながら生きています。妙見山に登る方は、助け合いながら登り、全員がこのすばらしい景色を見て帰ってほしいと思っています。妙見山をきれいな山にしてください。そして、いっぱい楽しんでください。みんなが良いことを少しずつすることで、妙見山がすばらしい山になります。私は、妙見山が、皆さんに愛される山にしていきたいと思います。

　３つの秘宝は、ビーバー隊の目標と同じでした。ビーバー隊の「きまり」は、この妙見山の自然を守る運営の目標と同じです。この秘宝の目標を実現するために、今日から頑張ります。

　これからも力を貸してください。
　よろしくお願いします。
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

　まことは、しばらく考え込んでしまった。
「ねえ、お母さん。ビーバー隊の『きまり』は、妙見山の目標と同じなんだって。そんなにりっぱなきまりだと思っていなかったから・・・」
「そう、今気がついたの？　いいのよ。気が付いたら、一生懸命守りましょう。どんなことでも、大切なところは一緒なのよ。カブ隊でもボーイ隊でも、言い方が変わるだけで、内容は一緒なの。いつも、目標が達成できるように頑張る気持を持つことよ。だから、ビーバー隊の『きまり』が妙見山の秘宝と一緒でもおかしくないわ」

あとがき

舎営のシナリオを書き終わってから、プログラムを実施するプロセスを公開できないかと考えた。その背景に、２０年近く前に建築の建物プレゼンテーションの手法として、「シナリオスクリプト」という手法があったことを思い出した。コンピュータグラフィックスを使用して、建物の完成イメージや施工プロセスを説明することが一般的になってからのことだ。建物を機能別に説明するのではなく、建物が共用されてからの使用シーンを使用者の生活行動とともに記述する考え方である。神戸大学の田中克己教授（２０１７年３月京都大学退官、京都大学名誉教授）から紹介されて、大阪大学の笹田剛史教授（２００５年９月逝去、大阪大学名誉教授）が実際に適用した。大阪市内の高層ビルが対象であった。近隣に住んでいる大阪大学の学生二人が登場する。自宅から自転車でこの建物にやってきて、生活する様を描いている。

ボーイスカウトの活動報告も同様である。活動後の報告にすると簡潔に実施内容をまとめることになる。ここで、HP を利用してリアルタイムにプログラムを公開したらどうかと考えた。わくわく感を高めることが目標だ。通常の隊集会は１日で終わることが多い。長期にわたって、準備やプログラムを展開するのは、キャンプや舎営になる。シナリオがあれば、当然物語の展開になり、最初から最後まで、途中を含めて楽しめる。これを当事者だけにとどまらず、HP に掲載すれば、保護者のみならず親戚関係者の家族単位でも楽しめる。公開方法によっては、部外者でも楽しめるようにすることも可能である。これは、活動のＰＲ方法として有効ではなかろうか。

裏方の動きと実際のスカウトと指導者の動きが、物語のように日々展開すれば、継続して HP にアクセスしてくれる人がでてくるだろう。とにかく、実績が重要で、完了後に評価できる足跡を残すこととした。その前に、シナリオから物語の本にする必要があった。隊長を含めリーダーの協力が必要だ。イメージを理解してもらうために仮想の物語を作成した。これに近い形で実際の活動を展開させる。隊長には心配があった。スカウトが情報を事前に知ることで興味を薄れさせないかという点である。実際は本を書く中でスカウトや保護者の興味は大きくなる方がむしろ多いと判断した。HP だけを見ている人にも物語の内容が理解できるようにする必要がある。話を面白くするには、情報も前倒しにする部分も必要である。

映画の予告編を考えてみると、一番いいところを公開している。それに感動して映画を観たくなる。しかし、実際はそれ以上の見せ場はなかったりする。とにかく、楽しみを膨らませるようにすることは、効果的と考えるべきで、話や写真だけでは、実際の活動を想像できないのだ。活動は体験したときに本当に感動させないといけない。実際の活動の予備知識をもって、本番の感動を大きくできるよう計画を立てるべきだ。

いろいろ心配もありながら、本のプロセスを HP に掲載する際には、隊長の確認を得て

行うことを隊長と約束した。隊長は、いつもスカウトの目線で評価していた。前倒しの例は、「ＷＡＮＴＥＤ」である。舎営でスカウトに知らせることを事前に伝えてしまう。これは、こう考えた。「ＷＡＮＴＥＤ」は、施設から発信される情報である。舎営の当日よりも前にその状況は起きている。であれば、事前に大明神から情報が提供されてもよい情報になる。それが、話題を作り、事前の展開を肉付けできるはずだ。スカウトも理解できる時間が取れる。

秘宝や地図の情報提供は、フライイング気味の公開である。これもＨＰ読者に楽しんでももらうための情報である。大明神の判断で大明神が持っている情報が提供されることは、止むを得ないことと考えることとした。それによって、スカウトは楽しみを膨らませるだろうと考えた。

舎営は１ヶ月前から始まる。内容や背景、教育的効果をどこまで理解してもらえたかは、確認したい。ただ、実際の活動を体験してもらった後で、本を公開する。本は４５ページとなった。５０分ぐらいで読める。これで、スカウト家族の様子や指導者が考えた教育的効果を改めて伝えることができる。

一般の人の参加を前提としたイベントでも、活動の参加をアピールするちらしやポスターだけでなく、ＨＰで情報を提供することをやってみたい。１か月前からシナリオスクリプトを考えて、事実と創作を組み合わせて、おもしろい説明とすることを広めたい。ボーイスカウトの活動はおもしろいのだ。真におもしろさを掲載して、ボーイスカウトの良さを理解していただくことを目指している。

豊中第２団の HP（８月１日）から引用